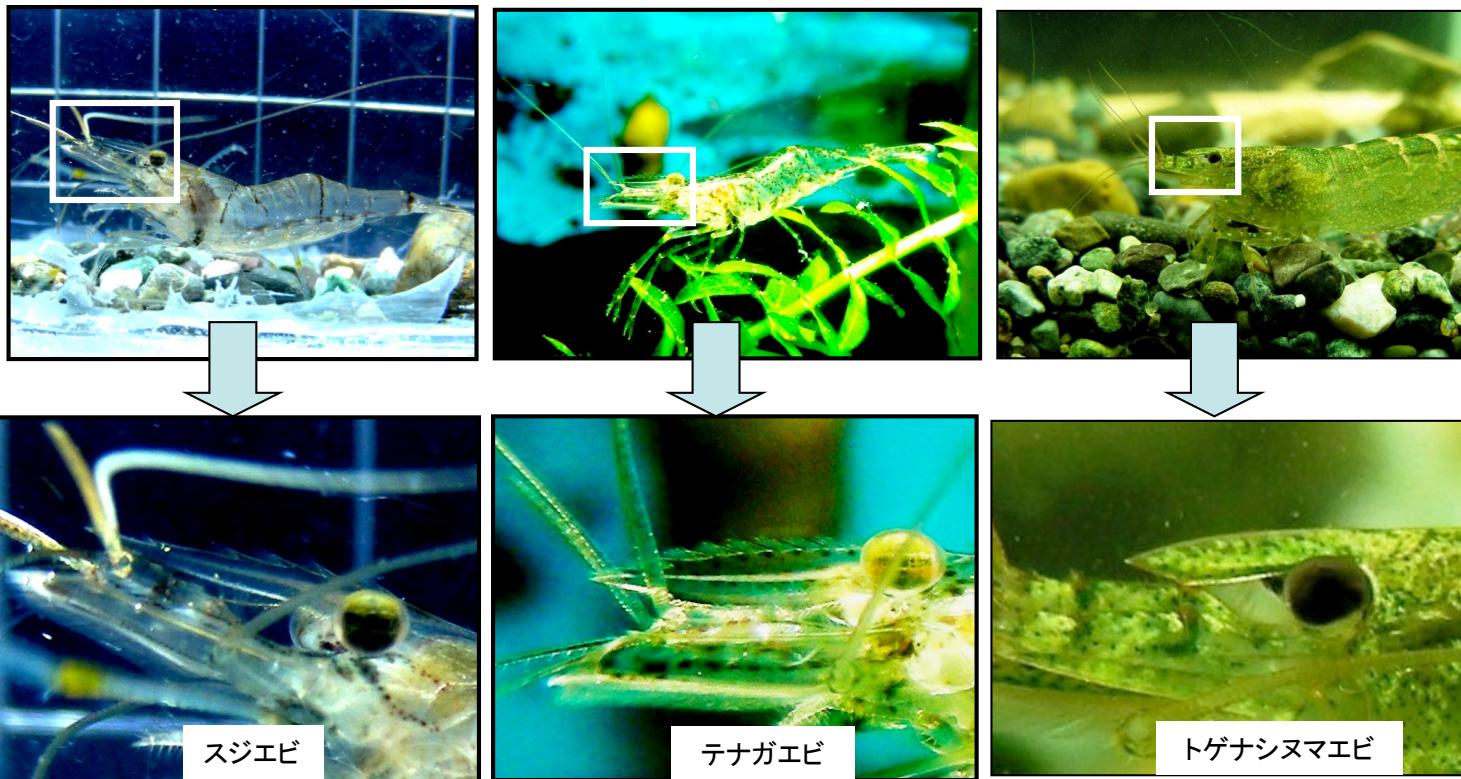


同様に撮影したエビとその額角部分の拡大写真



このガイドは 以下の資料を参考にしました。

- * 林 健一. 1989, 1990. 日本産エビ類の分類と生態(45~51). 海洋と生物60~66.
- * 林 健一. 1999, 2000. 日本産エビ類の分類と生態(109~114). 海洋と生物125~130.
- * 新島偉行. 2001. 千葉県における淡水産十脚甲殻類の分布について. 千葉生物誌51(2).
- * 新島偉行. 2002. 千葉県における淡水産十脚甲殻類の分布について(Ⅱ). 千葉生物誌52(1).
- * 千葉県. 2006. 千葉県の保護上重要な野生生物－千葉県レッドデータブック（動物編）；十脚甲殻類

- 1) 種の概要と額角の鋸歯の数値は海洋と生物に連載された林氏に拠っています。
- 2) 掲載写真は依田が実体顕微鏡及びデジタルカメラで撮影したものです。
- 3) 掲載図のうち、個別種の頭甲胸及び額角図は新島氏の論文から転載したものです。
また、エビ固体全図は稻生、その他は依田が作成しました。
- 4) 新島氏には図の転載をご許可いただいた他に、淡水エビの基礎知識、調査手法、種の簡易な判定等多くのご指導と助言をいただきました。

追補

本資料を生物多様性センター「いのちのにぎわい調査団」の資料としていただくにあたって、団事務局から中央博物館駒井智幸氏に目を通してください何点かの指摘とご助言をいただきました。その内、用語用法の間違い等につきましては本文中に修正できましたが、参考とした資料による制約などによって修正しなかった点は次のとおりです。

- * 1ページ目で琉球諸島のテナガエビ生息数を11としていますが、現在(2008年時点)は14種とのことです。
- * 同じく、千葉県固有種の存在や南方種生息の北限となっている可能性について記述しましたが、固有種の存在はほぼ無いですが、南方種生息の北限の可能性はあるようです。

以上を本文中ではなくここに記した理由は、各分野専門家のご努力で新しい知見が日夜積み重ねられていることを共に再確認したかったからに他なりません。

あらためて中央博物館駒井氏といのちのにぎわい調査団事務局に感謝します。